

浄心寺だより

発行

浄心寺門信徒会

郵便番号714-0081

笠岡市笠岡2065

電話(0865)62-2623

FAX(0865)62-2595

振替01260-9-13760

<http://joshinji.suki-ari.net/>



当山の桜と梵鐘

明日ありと思ふこころのあだ桜

夜半に嵐の吹かぬものは

(親鸞聖人九歳の吟詠)

「み法を味わって」(古)

親切

親切は人間にとって大切な行いであります。それは相手を敬う心、相手の人格の中にある宝を拝む心から生まれます。だから親切は本来してやるという見下した心からはできません。人のためにしてやって、喜ばしてやろうと思うなら、それは親切ではなく、思い上がりだと思えます。

親切は私が人間としてすべきもつとも重要な行為の一つです。それをできる機会が与えられたら精一杯する。その結果が相手に喜んでもらえるかどうか、役に立つかどうか、それほど値打ちがあることができるかどうか自信はないが、せめて、できる限りのことをしたこの行いを受け取っていただければありがたいと、させて頂くことだと思えます。

この考え方が、「情けは人の為ならず」であり、また粗品とか寸志とかいう言葉のもとだと思えます。

鷹谷俊昭著『月ごこのことば』(探究社刊)

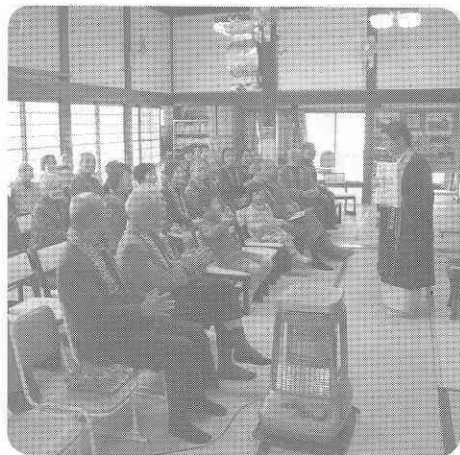
ごあんない

宗祖降誕会

五月二十日(土) 十三時より

- ◎ コール清風ミニコンサート
- ◎ チャリティコンサート
- ◎ 笑福亭喬楽・生寿師匠

春季彼岸会 永代経法要 つとまる



三月十七日、一時半より春季彼岸会、門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。

阿弥陀経をお勤めの後、ご法話を拝聴。講師は三次市、源光寺の福岡玄猷先生でした。先生は岡山龍谷高でのご縁はありますが、当山には初めてのお越しです。

冒頭、参拝の子供に目を留められ、幼い時のご法縁は記憶に残るものですと、『おかげさま』という絵本の読み聞かせを頂きました。

その後、浄土真宗の「ご利益」についてお話をされました。俗世間では「除災招福」を願って神仏にお参りしますが、浄土真宗ではそのような願いはかなえられませ

ん。その代わり、「現生正定聚」という利益をいただきます。「現生」とは「今のこの人生で」、「正定聚」とは「救われることが決定している」という意味です。わたしたちは煩惱だらけの今のこの身のままで、仏さまの慈悲に照らされて救いの中にある。だから様々なことに惑わされず、しっかりと今を生きましよう、ということなのです。

後半には『二河白道』の紙芝居がありました。これは善導大師が説かれた譬え話です。ある旅人が川にさしかかると一本の白い道が向こう岸まで続いている。道の右側は洪水で激しい水しぶき、左側は炎が燃えさかる。後ろからは盗賊や獣が追いかけてくる。対岸から阿弥陀さまが「こちらへおいで」と手招き。こちら岸からはお釈迦さまの「向こうへ行け」という声。この声に従って旅人は無事対岸に渡り難を逃れた、という話です。貪りや執着、怒りや憎しみの心を抱いて生きる私たちが、仏教の教えや阿弥陀如来の慈悲によつて救われてゆく姿を譬えたものです。この紙芝居も、大人も子供も興味津々に聴き入っていました。子供たちが大人になつてもこの場面が記憶に残っているといいですね。

真鍋島を歩いたよ

備中里組仏教青年部会(伊藤妙香部会長)による「真鍋島を歩こう！」が四月二十二日に開催されました。

浄心寺に総勢六十名(うち子供二十九名)が集合し、新しくなった住吉港よりチャーター便で真鍋島へ向かいました。

島内をハイキングし、昼食はおいしい「島弁」。晴天に恵まれ、いい汗をかいたよい一日となりました。

宗祖降誕会(三つたんえ)

五月二十日(土)

今年は開始時刻を早め、十三時からとなります。お勤めの後、浄心寺婦人会のコール清風のミニコンサート、プロの演奏家によるチャリティーコンサートに続き、落語を楽しんでいただきます。

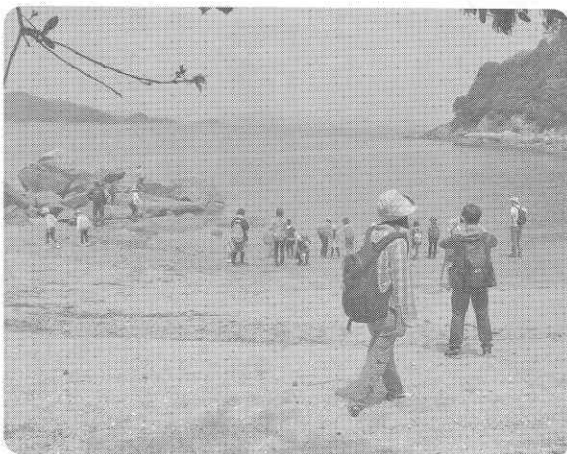
落語は松喬師匠の四番弟子、笑福亭喬楽さんと、師匠の孫弟子の生寿さんがお越しくださいます。上方落語をお楽しみください。



笑福亭高察さん



笑福亭生寿さん



還浄(げんじょう)

| | | | | | |
|----|----|---|----|----|-----|
| 仁後 | 敏子 | 2 | 17 | 91 | 宮地 |
| 小川 | 治善 | 2 | 19 | 82 | 浅口市 |
| 鈴鹿 | 陽三 | 2 | 19 | 83 | 西の浜 |
| 馬上 | 尊一 | 3 | 1 | 73 | 里庄町 |
| 内海 | 哲也 | 3 | 30 | 82 | 小平市 |
| 藤原 | 裕志 | 4 | 3 | 71 | 生江浜 |
| 長安 | 実来 | 4 | 7 | 17 | 倉敷市 |
| 北村 | 弘行 | 4 | 8 | 68 | 里庄町 |
| 榊平 | 孝子 | 4 | 10 | 91 | 川辺屋 |
| 赤木 | 政男 | 4 | 10 | 80 | 伏越 |
| 宮脇 | 次郎 | 4 | 10 | 75 | 入江 |

お詫びと訂正

前号で小林力己氏の行年が93歳となっていました。正しくは70歳です。お詫びして訂正します。

門信徒の広場

伝灯奉告法要に参拝

三月三十一日に備中里組の浄心寺、報恩寺、蓮乗寺、慈恩寺で伝灯奉告法要に参拝しました。

当寺からは住職、前住職、前坊守をはじめ、二十三名が参加。

本山に到着後は境内で集合写真撮影後、自由時間となり、龍谷ミュージアムや飛雲閣のお茶席、

書院の拝観など、それぞれ分かれて有意義な時間を過ごしました。そして二時からいよいよ法要が始まりました。新しく就任された専如門主による導師のもと、音楽法要による華やかなおつとめに、一同感激しました。最後には前門さまなどご家族が一堂に会され、三世代でのお披露目やお子さんへのインタビューもあつて、世代交代を眼前に実感したことでした。

法要には全国から多くの方がお参りになっており、ハワイや北米にくの雨天で寒い一日となりました。あいたが、お代替わりの節目に参拝でき、素晴らしい日となりました。



当寺の「和朝高僧連座像」も出展され、副館長から歴史的な意義について解説していただきました。

仏婦例会

仏教婦人会例会が三月十二日に開かれました。四十七名が出席。

まず、五月の仏婦研修旅行で伝灯奉告法要参拝のお知らせ、平田澄子先生より文化箏同好会へのお誘いの説明がありました。

ご法話は生江浜の蓮乗寺住職、田井智彦師で、「因縁生起」についてお話しいただきました。ものごとには必ず因(直接的原因)と縁(間接的原因)があり、正しい原因を求めるのが仏教的態度だとい

うことを、身近なたとえ話で分かりやすくお話しいただきました。例えば「死」の直接的原因は「生

まれてきたから」であつて、病気や事故など通常の「死因」は「死縁(間接的原因)」というべきではないか、などなど。

私たちは「いいことをしても報われるとは限らない」、思うにまかせぬ人生を歩まねばなりません。

そんな私たちのことを分かつて包み込んでくれる存在が阿弥陀如来です。極楽という世界は楽しくて

しょうがない世界というよりは、もう涙を流さなくてもよい世界です。頑張ってきた私たちをねぎらい、受容するのが阿弥陀如来であり、極楽浄土です。ともに苦しみ

(共苦)、同じ悲しみに立つ(同悲)仏さまと言われるゆえんです。

サマースクール

7月24日(月)、25日(火)
対象:小学生なら誰でも
参加費:2000円
締め切り:7月16日



研修旅行のお誘い

今年度の門信徒会研修旅行は6月3日(土)に京都へ、大谷本廟と月桂冠大倉記念館を訪ねます。参加費は8500円、定員は45名です。5月19日までにお申し込みください。

浄心寺 料理教室

三月三日(金)、参加者十五名。

当日は「ひな祭り」にちなんだ料理を榎平先生に教えていただきました。かわいいひな壇ケーキにはまるで少女のように大感激でした。



初参式ご案内

5月21日(日) 10時より

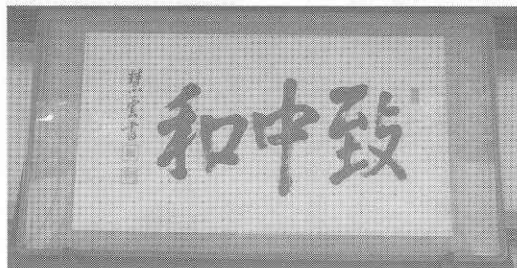
お子さんが初めてお寺参りし、阿弥陀さまにご挨拶する儀式です。乳児から未就学児までが対象ですが、それより大きなきょうだいと一緒に参加も歓迎します。5月14日までにお申し込みください。



浄心寺の法宝物 その16

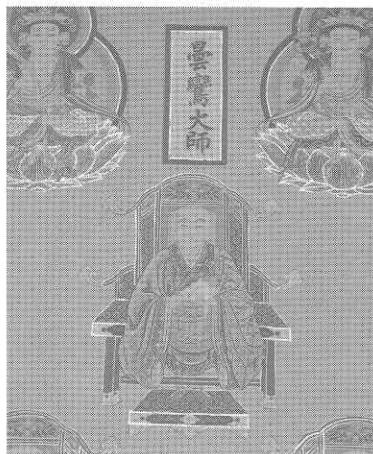
『致中和』(額装)

(中和を致す=いずれにも偏らない中道を実践し調和の世界に到る)



慧雲(えうん)(1730~1782)書

たて 92cm
よこ 181cm



七高僧のご事績(三)
第三祖 曇鸞大師
どんらんだいし

仏教



教えと そのあゆみ



大師は中国北魏孝文帝の承明二年(四七六年)北中国山西省五台山に近い雁門に生まれられ、東魏の興和四年(五四二年)六十七歳で入寂されました。

はじめ「四論宗」を学ばれて、『大集経』六十巻の注釈書を作ろうとされましたが、その途中、健康を害したため中断されました。そのために陶弘景(隱居)を訪ねて不老長生の法を求められたのですが、帰途、洛陽で『浄土論』の翻

慧雲は広島、法専坊の第十二世住職。私塾・白蓮社を興し大瀧や僧叡ら多くの「芸徹」と言われる学僧を育てました。

また、門徒に「神は尊敬すべきものであるから、汚穢不浄の屋内に神祠を構えるのは恐れ多いことであるから、祀らない方がよい」と神棚を撤廃させたことから「神棚おろしの法専坊」と呼ばれ、一方では各集落に「お参り講」といわれる僧侶と門徒との懇親会を推進し、「安芸門徒」とさえいわれるように芸州の地に真宗が大いに繁

訳者・菩提流支に謁して『観無量寿経』を示され、「これによって修行すれば、きっと生死を解脱することができ、だるう」と教えられ、直ちに仙経を焚き捨てて、ついに浄土教に帰依されました。

やがて天親菩薩の『浄土論』を註釈した『浄土論註』を、そのほか『往生論註』二巻、『讚阿弥陀仏偈』一巻、『略論安楽浄土義』一巻を著しました。

魏の文帝は大師を「神鸞」と尊称して厚くもてなし、梁の武帝は「鸞菩薩」とあがめて、常にその居住地である北方の空を拝したというほど徳望のあつた方です。

昌して今日に至っています。なお、この額は本堂正面の入口内側に常時掲げられています。

イチヨウの剪定



境内のイチヨウの木を三月下旬に剪定しました。十数年前にも枝を落としましたが、枝も伸びて葉のつきが悪くなってきたので、庭師さんに剪定をお願いしました。

当日は若い庭師さんがチェーンソー片手に木によじ登り、枝を切り落としていきました。長いものでは七メートルもあり、一本の木を切り倒すくらい、重くて長かったそうです。すべて終わったのちには、庭師さんは全身が痛くて動けないくらい疲労困憊されていました。

本願寺において、第二十五代専如門主伝灯奉告法要に団体参拝、春季彼岸会・永代経法要、キッズサンガとして備中里組から、「島呼べば、島微笑む、笠岡諸島」歴史と花で知られる真鍋島へのハイキング等々のご報告、本年度のサマースクール、虫干し法座、初参式等々のご案内をお知らせする浄心寺だより第119号をお届けします。(編集委員)

編集後記

虫ぼし法座

七月十八日(火) 十三時半より

講師 竹原市・宝泉寺

菅 知尚師